



今年で 3 年目を迎えたイギリス海外研修。この事業は地元の豊田市やトヨタ自動車の御支援のもと実施しているプログラムで、豊田市の姉妹都市（ダービーシャー州）にあるレプトン校及びトヨタ自動車の現地工場である TMUK（Toyota Motor Manufacturing UK）との連携を軸に実施しています。

「先端技術に学ぶ」・「繋がりに学ぶ」・「自ら学ぶ」本校の SSH 事業の集大成とも言える研修ではないでしょうか。ここではその速報版を報告していきます。

今年の派遣団は 1 年生 3 名（男子 1 名・女子 2 名）、2 年生 7 名（男子 4 名・女子 3 名）、及び引率教員 2 名（理科・英語）の 12 名。保護者の皆さまや先生たちの温かい声援を受けながら、朝 8 時に本校を出発しました。さすが豊田西高生。帰国子女を含め、派遣団のなかに海外渡航経験がない人はいません。ただ、ヨーロッパは初体験という人が多く、セントレアからヘルシンキ（フィンランド）までの約 10 時間（時差 7 時間）、さらにマンチェスター（イギリス）までの約 3 時間（時差 2 時間）の空の旅は骨が折れるものでした。

初日はほぼ移動に時間を費やしましたが、飛行機内では英語での研究発表の最終調整を行ったり、春休みの課題をこなしたり、寸暇を惜しんでやるべきことをやる姿は、まさに豊田西高生の典型です。楽しむところを楽しむために、自分に与えられた時間を最大限に活用する。丸 1 日近く寝ていないにもかかわらず、ホテルに到着したあとはレプトン校でのプレゼンテーションのリハーサルまで行うタフな姿に、ミライの世界を担う頼もしさを感じました。



出発式



セントレアから空の旅へ



機内では発表の最終調整&勉強



マンチェスター着



ダービー着、夕食(?)へ



最後まで準備に余念のない生徒